与謝野鉄幹(真) 歌人。浪漫主義文学の拠点となった{明星}創刊・主宰、晶子を世に出すも、自らは不振に陥り学者に転身。

よさのてっかん

明治6年政変 1873 = 京都府岡崎村(京都市)で、西本願寺掛所願寺住職礼庵の四男に生まれる。母は商家出の初枝。

__歌僧であった父の事業の失敗で寺を離れ、

明治14年政変 1881 = 8歳 :

新体詩抄・ ・ 1882 = 9歳 :

岩倉具視没・ 1883 = 10歳 : __大阪府住吉の安養寺住職の養子となる。

帝国憲法発布 1889 = 16歳 : __西本願寺で得度後、山口県徳山の兄の寺に赴き、寺が経営する徳山女学校の教員になるとともに、寺の機関誌(山口県積善会雑誌)の編集に携わって、

帝国議会始・ 1890 = 17歳 : __初めて鉄幹の号を用い、

足尾鉾毒始・ 1891 = 18歳 : __養家を離れ、与謝野姓に復する。

大本教・ ・ ・ 1892 = 19歳 : __女生徒浅野信子と問題を起して退職(後女児誕生するも夭折)、帰郷後、上京し、落合直文の門に入り、

郡司千島探検 1893 = 20歳 : __{あさ香社}に参加した。

日清戦争始・ 1894 = 21歳 : __御歌所の古い歌風を排撃した「亡国の音」発表。

日清戦争終・ 1895 = 22歳 : __{新報社}を退社し、漢城に開設された日本語学校教師として朝鮮に渡るが、閔妃事件が起こり退去処分の一員となって帰国、凱旋扱いされ無罪放免されると志士気分となって、再び渡鮮、

白馬会・ ・ ・ 1896 = 23歳 : __ロシア公館に逃れた高宗奪還計画実行せず帰国。明治書院の編集長となる一方、跡見女学校で教える。第一詩歌集「東西南北」、

八幡製鉄始・ 1897 = 24歳 : __第二詩歌集「天地玄黄」を刊行して文壇に登場後、なぜか三度目の渡鮮、

子規句歌革新 1898 = 25歳 : __帰国すると、

Bushidou・ ・ 1899 = 26歳 : __信子と離別し、徳山女学校の別の教え子林滝野と同棲しながら、{新詩社}を創設し、

ビア/国産化・ 1900 = 27歳 : __{明星}を創刊・主宰。「子規子に与ふ」。鳳晶子と運命的な出会いで、感傷的な歌風に転じ、

田中正造直訴 1901 = 28歳 : __第三詩歌集「鉄幹子」第四詩歌集「紫」。滝野と離別して、晶子と結婚。歌集「みだれ髪」をプロデュース。

教科書疑獄・ 1902 = 29歳 : __短編小説「小刺客」「開戦」。

__結婚後、極度の不振に陥り、

日露戦争終・ 1905 = 32歳 : この頃、__鉄幹の号を廃止。

アララビ創刊・ 1908 = 35歳 : 和歌革新に寄与し浪漫主義文学の拠点となった__{明星}終刊。

伊藤博文暗殺 1909 = 36歳 :

韓国併合・ ・ 1910 = 37歳 : 「相聞」には円熟した歌風がみられる。

大逆事件判決 1911 = 38歳 : 妻晶子の計らいでパリに行き、

明治天皇没・ 1912 = 39歳 : 晶子も合流し、ロンドン・ウィーン・ベルリンを歴訪、新文学の吸収につとめて、帰国。

21ヶ条要求・ 1915 = 42歳 : 故郷の京都府郡部地区から、総選挙に立候補するも落選。

本格政党内閣 1918 = 45歳 :

^ 財仁条約・ 1919 = 46歳 : __慶大教授に就任。

原敬首相暗殺 1921 = 48歳 : 晶子らとともに第2次{明星}を発刊。

水平社結成・ 1922 = 49歳 : 有力な庇護者だった森鷗外が死去。

金融恐慌・ ・ 1927 = 54歳 : 第2次{明星}終刊。正宗敦夫とともに、「塵劫記」復刻を含む「古代数学集」刊行。

満州事変・ ・ 1931 = 58歳 : 晶子らとともに、歌誌{冬柏}を発刊。

五一五事件・ 1932 = 59歳 : 慶大教授を退職。

国際連盟脱退 1933 = 60歳 : __上海事変に取材した毎日新聞の歌詞募集に応じ、一等になる。

__晩年は語源研究を志し、「日本古典全集」刊行にも尽くし、

芥川直木賞始 1935 = 62歳 : 肺炎で、__没した。